JABEE創立25周年記念大会

地球・資源分野

産業技術総合研究所　地質調査総合センター
丸井　敦尚

WX（Water Transformation）を推奨しています

地球資源分野では、2008年以降１１プログラムを対象に審査・指導を実施している。

大所帯とは言えないが、関連機関内での連絡・情報交換も密で、分野内での意識統一も図られている。

対象となる学会は、資源素材学会、日本地質学会、日本応用地質学会、日本地下水学会の４団体である。

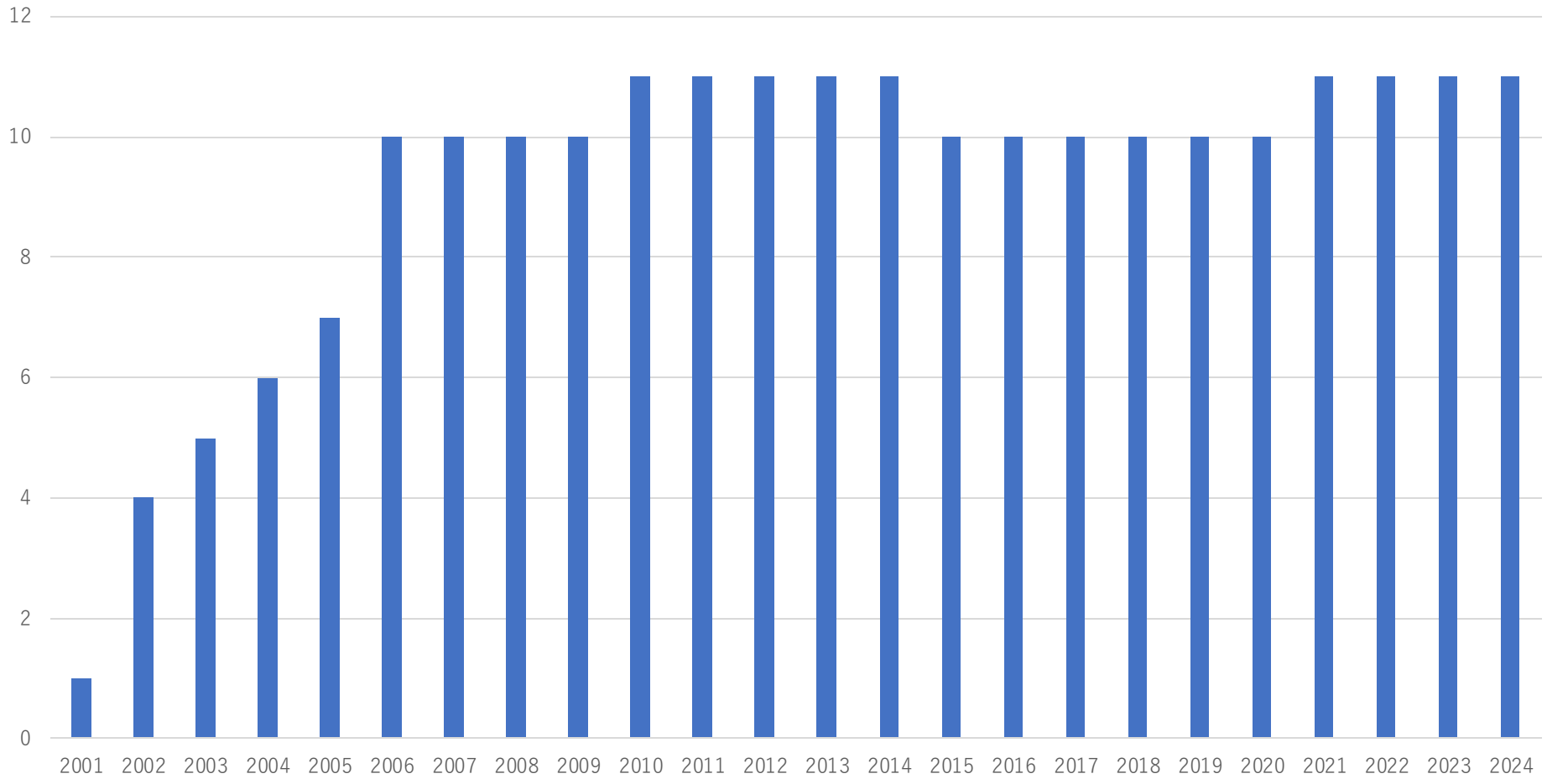
我が国の地球科学研究をリードしていて、都市計画や大規模工場誘致など国の基盤情報を積極的に整備して、人々の生活（生命・財産）を守るだけでなく国力の増強にも大きく寄与している。

2023年までは、資源素材学会が幹事学会として、当分野をリードしてきたが、
2023年からは、４学会が共同で、地球・資源分野JABEE委員会を設立して、JABEE審査の運営に当たる組織となった。

そこで、2024年度には新規事業としての「地球・資源分野JABEE認定プログラム情報交換会議」の開催
９校と６名の委員。

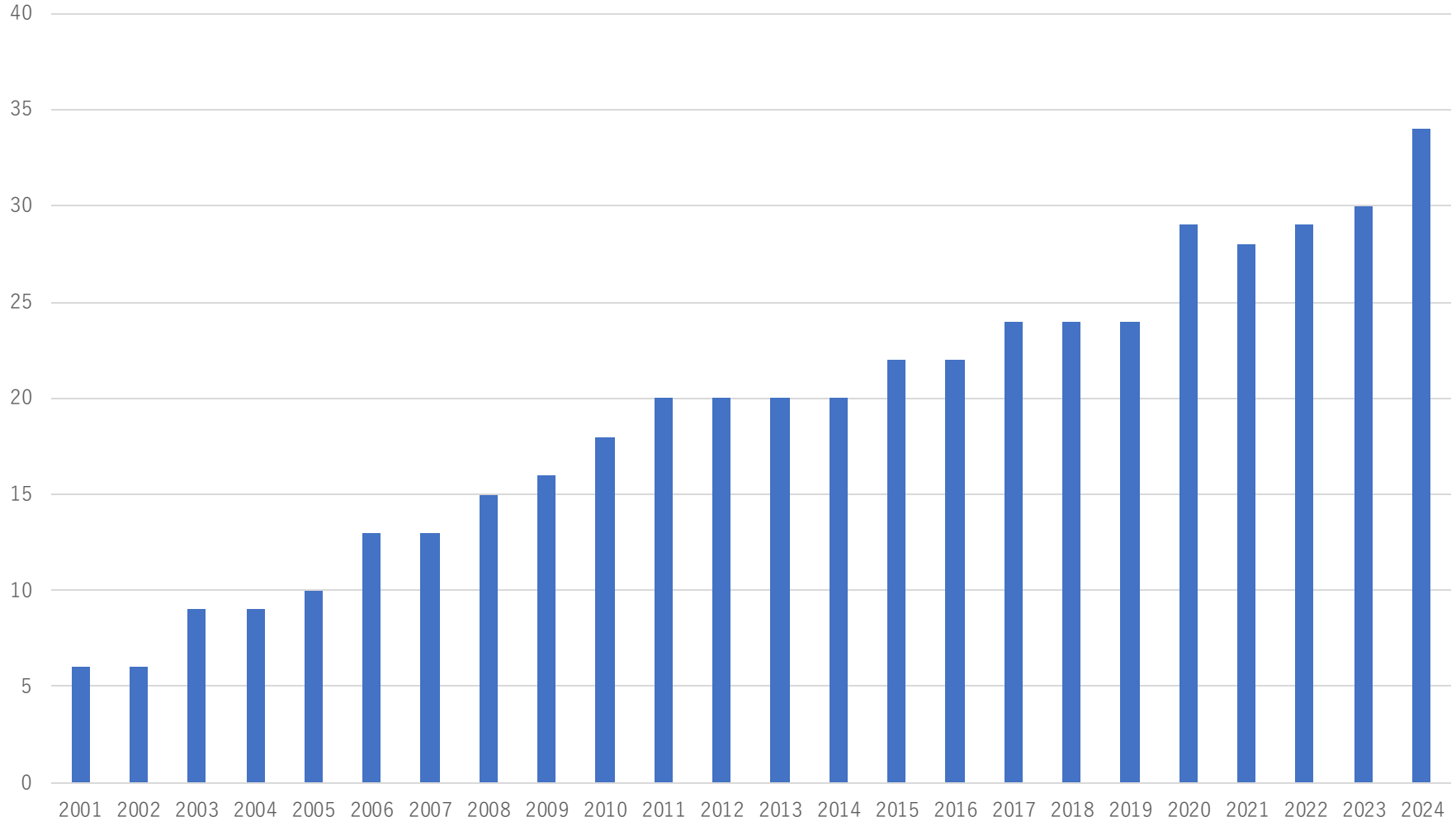
この会議は、JABEE校間での情報交換を行い、他校の取り組みや長所を理解して認定プログラムの質の向上を図ることに資する事業を行う。

地球・資源分野対象プログラム数



地球・資源分野では、2006年度以降安定したプログラムの審査・指導を実施している。

地球・資源分野審査員数



地球・資源分野では、プログラム数に大きな変化がみられないものの、
分野としての審査体制は充実し続けている。

地球・資源分野JABEE認定プログラム情報交換会議

〇工程案（3/27委員会提案を修正）
・6～7月に事前調査アンケートを行い、各校のJABEE運営の実態を集約する。
・８月にアンケート結果を配信し、会議での主な議題を検討する。
・9月に議題案にもとづき、運営上の実態報告をしていただくJABEE校を決め、資料作成をお願いする。
・11月頃、対面およびオンラインによるハイブリット会議を開催し、認定プログラムの質の向上を目指す。

〇会議の概要
・会議は、半日（３～4時間程度）とし、各校２～3名、当委員会から数名の計30名程度の参加者で行い、実態報告を数校にお願いする。
・初めての頃の試みであるので、参加者はJABEE校と委員会メンバーに限定する。

〇会議結果の扱い
・会議結果は、問題ない範囲で編集し、当委員会HPに掲載し公表する。

アンケート内容

・学科の状況
　定員、教員数、非常勤教員数、事務室（担当事務員含む）の有無など

・JABEE認定プログラムの状況
　運用開始年、対象（学科全体あるいはコース）、コースの場合対象者の人数、選定基準、選定時期など

・社会の要求把握の状況
　外部アドバイザー委員会（人数、開催頻度）、卒業生アンケートや卒業生との情報交換会、
　業界アンケートや交流会など

・シラバス状況
　記載上の工夫（学習・教育到達目標、ディプロマP、カリキュラムPとの関連、その他の目標との
　関連など）

・教育実施状況
　認定プログラム運用上の工夫点（実習、実験、目標管理（学生、教員）など）

・予算状況（JABEE審査料、巡検や進論の経費やバス代などの対応策）

・施設関連状況
　認定プログラム運用上特にコメントする事項など

・継続改善関係
　認定プログラム運用上の工夫点（改善チェック組織、学部組織との関連など）

おわりに

近年の傾向として、JABEEをはじめ、医・歯・薬・看護・獣医などの分野にも「分野別評価」が広がってきた。

このような第三者評価は、大学教育の質を劇的に向上させる効果がある。
文部科学省が大学に求めてきた「社会ニーズを踏まえた高等教育」と「質保証」という大学改革の２本柱を一気に実現させる力があり、ぜひJABEEをはじめとした分野別評価をどれだけ受け入れているのか、を大学の評価指標のひとつに採用して欲しい。たとえば学術雑誌において査読制度が掲載論文のクオリティと信頼向上に寄与しているのと同じと認識している。大学教育にも第三者評価が必要と考える。

国立大学の交付金の額は、評価指標であるKPIの数値で左右される。
もしもJABEE, JACME（医）, JABNE（看護）などの分野別評価がKPIに加われば、
大学執行部は各学部に第三者評価の認定を受けるように強く求める可能性が高い。
⇒JABEE認定プログラム数向上につながる。

現在、全国の大学のほとんどは内部質保証にとどまっており、第三者評価については様子見の状態である。JABEEの実績を背景にした「第三者評価は極めて効果的だ。大学教育に積極的に取り入れるべきだ」という主張は、日本の大学教育を良い方向に導くのではないでしょうか。